

家系図をつくる

松尾 和彦

皆様は幕末明治維新の頃の先祖の名前をご存じですか。大体五代くらい前になるのですが、答えられる方は少ないと思います。一人ぐらいなら答えられるかもしれませんが実は五代前の先祖は 32 人もいるのです。これが江戸時代中頃の十代前になると 1024 人、室町時代となる二十代前ともなると 100 万人を超えます。幾らなんでもそれは無理ですが直系の先祖ぐらいは調べたいですね。

このように家系を調べるというのは大変な作業になりますが、その大変なことに調練したのが永峰英太郎氏です。永峰という名字でお判りかもしれませんがセルロイド玩具のパイオニアである清次郎氏の曾孫です。

ところが英太郎氏は清次郎氏がどのような方かをご存じありませんでした。そこで曾祖父のことを調べようと思い立ち調べ上げて、他の人にも手順を紹介するために書き上げたのが前回に岩井館長が紹介した「家系図をつくる」(以後本書とします)です。

本書ではまずは戸籍に当たることを紹介しています。戸籍自体は 645 年の乙巳の変(かつては大化の改新と言っていましたが、現在ではこのように言います)以後に行われた改革政策にまでさかのぼることが出来ますが、現在でも取り寄せることが出来るもので最古といえれば 1886 年(明治 19 年)の戸籍です。

本書では 1886 年の戸籍他の戸籍を取り上げています。これで五代前くらいまで遡ることが出来ました。それから先はどうすればいいでしょう。

こちらの答えも書かれています。お寺に行くのです。菩提寺にある過去帳を見せてもらうのです。また墓を見て回るのです。墓には名前や没年月日等が記されていますので貴重な資料となります。

こうして名前が分かると職業や地位も知りたくなるものです。実は名前である程度のこと分かるのです。というのは江戸時代には町人は名だけで姓がありませんでした。また武士のような名前を付けることは禁止されていました。さらに同じ職業の人が同一地域に固まって住んでいました。このようなことから職業、地位が分かります。

もう少し時代を進めましょう。戦国時代という難所があります。この時代は人の移動が多かったうえに資料が遺っていません。

そのために戦国時代は空白地帯となってしまいますが、さらに進めると日本人の大半が「源平藤橘」にたどり着きます。ここまですると 1000 年の歴史となってしまいます。

他にも家紋で調べる、同姓の人と連絡を取るなどを行うことで家系図を作っていくことが出来ます。

本書は、ここまでに紹介してきた方法その他について分かりやすく紹介していますのでお勧めの内容となっています。「家系図をつくる」は自由国民社の発行で定価は 1500 円プラス税金です。